

—スラントニードルミシンにおける布重ね枚数の位置別による針目損傷—

東海学園女短大 西条 セツ
 ○辻 啓子
 丸山 幸枝

1. 従来の家庭用ミシンと $L 9^\circ$ の前方傾斜の針を有するスラントニードルミシンの縫製時における織糸の針目損傷と布重ね枚数の位置による損傷について比較検討した。

針による布の損傷は縫製上の外見を悪くし、縫合効率の関係においても針目損傷が増大すると効率が低下すると言われている。この点から縫製時におこる損傷を主とし、重ね枚数と重ね枚数の位置による損傷について研究した。

2. 試料布は市販の平織2種、綾織2種を使用し、縫糸はソフト仕上げカタン糸 50'S/3 を使用した。針は#11, #14 の2種である。試料布は $30\text{cm} \times 5\text{cm}$ とし、重ね枚数は2・3・4・5 の4種。縫製後 24hr 放置後、縫糸を切断し、Light Scope を使用して測定した。単位は各試料布50針で各種5回の測定結果である。

3. (1) 切断損傷、切断貫通損傷において、ミシンの種類別による差はみとめられなかったが、厚地の試料布の場合、針#11ではスラントニードルミシンの方が多く、針#14では逆の結果になった。

(2) 布重ね枚数が増加すると針目損傷が増加するという傾向がみられた。重ね位置別ではスラントニードルミシンの5枚重ねにその差が顕著に現われ、最上、最下布は少なく、中間布に多いという結果を得た。